

「景観アドバイザーからのメッセージ」

佐賀市、小城市、嬉野市を中心に
景観や地域づくりのアドバイザーとして提言されている
後藤隆太郎さんにメッセージをいただきました。



佐賀らしい景観とはどの
ようなものですか？

佐賀に限ったことではあり
ませんが、自然と人工が上手
く折り合う景観が佐賀らしさ
だと思います。たとえば、平野
部に広がる水路網は自然のよ
うに見えて、人の手が加わっ
ていますし、焼き物の町では閉ざ
された地形や人が採った鉱物
が、現在の町の景観に関わっ
ています。手つかずの自然とい
よりも、人と自然が対話しな
がら、ある時は闘いながら、あ
る時は共存しながら、佐賀らし
い景観がつけられてきたのだと
思います。

県内では、どのような景観
の取り組みを進められてい
ますか？

城下町・小城では、水路と生
活に関わる景観を調査してい
ます。小城のまちには、上流か
ら下流へと民家の敷地内を
伝って流れる「中水路が残っ
ています。ところが、必ずしもそれ

美しい景観づくりを進め
ていくためのメッセージを
お願いします。

自分の町というの、あたり
まえすぎて実はよく見えてい
ないものです。国内でも海外で
もよいのですが、旅行などで他
の町に行き、しっかりと観察す
ることで、自分の町の素晴らし
さや可能性が見えてくると思
います。良いところや悪いとこ
ろを整理して自分の町を客観
的に説明できるようになると
次の展開につながるのではな
いでしょうか。



後藤 隆太郎 さん

佐賀大学大学院工学系研究科准教授
佐賀県美しい景観づくりアドバイザー
専門は、居住環境計画、建築計画、
都市・農村計画など。

美しさが

佐賀県
景観情報誌
vol.8



http://www.pref.saga.lg.jp/



【特集】
浜野浦の棚田

「季節ごとに移り変わる風景 浜野浦の棚田」—佐賀県東松浦郡玄海町—
浜野浦川によって形成された浸食谷に、営々と築かれてきた棚田。菜の花に彩られる季節も美しい。

Information

「佐賀県屋外広告物条例」 改正のポイント

県全域が規制の対象となりました

広告物を表示できない禁止区域以外は、自家用の小規模なものを除き、表示する際に全て許可が必要です。

新たに自家用広告物が規制対象となりました

自己の店舗や事業所などの敷地内に、店名や営業内容などを表示する自家用広告物については、小規模なものを除き、知事の許可が必要です。

※佐賀市内では、「佐賀市屋外広告物条例」が適用されます。

許可申請の受付窓口は最寄りの土木事務所となっています
(佐賀市、武雄市の区域については、各市役所が受付窓口です)

「屋外広告物の設置には 許可が必要です」

要となつていきます。

県では県民共有の財産である美しい景観をより良いものにして子どもたちに残すため、美しい景観づくりに取り組んでいます。
お店の看板などの屋外広告物は有益な情報提供の手段ですが、無秩序に設置されると、美しい景観を損なうほか、老朽化による倒壊などのおそれがあります。
そこで、佐賀県屋外広告物条例により、広告物を設置する場合には、許可が必要です。
なお、平成22年4月に改正した条例の施行以前に適法に設置された屋外広告物についても、許可は必要です。お早めに許可申請をしていただくようお願いいたします。
美しい景観づくりは、行政の取り組みだけでは達成できるものではありません。広告主の方々をはじめ、県民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

発行 / 佐賀県 県土づくり本部 まちづくり推進課 景観担当
〒840-8570 佐賀市城内1丁目1番59号(県庁新行政棟8階)
TEL0952-25-7326 FAX0952-25-7314
メールアドレス machidukuri@pref.saga.lg.jp

美しさが 佐賀県景観情報誌 vol.8
平成25年3月発行



http://www.pref.saga.lg.jp/

〔特集〕 浜野浦の棚田（平成23年度佐賀県遺産認定）

空と海と棚田が オレンジ色に染まる 美しい風景



夕日が映える 自然の造形美

息をのむほどの美しさ。この風景に出会ったとき、きっと誰もがそう表現するでしょう。場所は、日本の棚田百選に選定されている、東松浦郡玄海町の「浜野浦の棚田」。面積は約11.5ヘクタールで、海岸から駆け上がる階段のように、山肌には大小283枚の田んぼが幾重にも重なっています。

例年4月中旬から田んぼの水張りがはじまり、5月上旬には田植えが終了します。この間、水平線に沈む夕日が海面と水田とをオレンジ色に染め、畦道が描く幾何学模様が、美しい切り絵のように見えます。太陽の動きに合わせて刻々と変化する景色は、私たちの目を楽しませてくれる自然の造形美です。

地域一体となった 景観づくり

田植えのシーズンともなれば、最高の一瞬をカメラにおさめようと、棚田を一望できる展望所に、全国の写真愛好家連など、大勢の観光客が訪れます。

「でも、雲がかかっていたり、夕日ががすんだりして、写真のような風景が撮れるのは年に数回くらいです」と教えてくださったのは、地元

大切な人と一緒に 行ってみよう棚田

浜野浦の棚田には、「恋人の聖地」という、もう一つの顔があります。全国の観光エリアや施設の中から、プロポーズをするのに最もふさわしい100カ所を選定するプロジェクトで、平成19年に認定されました。展望所には、ハートをモチーフにしたモニュメントも設置され、絶好のデートスポットとしても注目を集めています。

おすすめの時間帯は、夕方から日没にかけて、刻一刻と表情を変える棚田の風景は、一瞬たりとも目が離せない美しさです。フィアングル越しに写しきれない感動を、ぜひ現地まで足を運んで体感してください。



地元生産者前組合長 松本 長喜さん

「米づくりではなく、畜産やハウスみかん、イチゴの栽培が農業の中心です。本業とのバランスをとりながら、みんなで力をあわせて棚田の保全活動に努めています」と松本さん。平成27年の、全国棚田サミットの開催地にも選ばれました。全国に浜野浦の棚田をアピールするチャンネルなので、皆さんの活動にもますます力が入ります。

私たちの 景観づくり

「塩田津」を人が集う 生活感あふれる町並みに

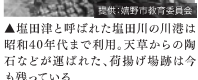
……… NPO法人 塩田津町並み保存会 副理事長 筒井省吾さん

江戸時代に長崎街道の宿場町だった嬉野市塩田町は、有明海の干満の差を利用した川港としても栄えました。その中心地だった「塩田津」には、江戸時代後期の居蔵造りの町家が数多く現存するとともに、藩政期の町割や水路、街路などがほとんどそのまま残り、貴重な歴史的景観が今日まで継承されています。この町並みを保存活用しよう、地元住民で発足したのが

などと連携しながら、現在は景観保存やまちづくりに取り組んでいます。

「町並み研究会」で、平成17年には念願の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。研究会は保存会へと改名し、塩田職人組合

など、その後の建築物をどう活用していくかも考えなければなりません。季節の行事やイベントなどで、地元住民のコミュニケーションの場として活用しながら、地域の方々に塩田津をアピールできるような情報発信もしていきたいと思っています。そして塩田に住みたい、生きた育つ塩田へ戻りたい、と思ってもらえる、生活感あふれる本物の町並みづくりを、これからも継承していきます。



▲塩田津と呼ばれた塩田川の川港は昭和40年代まで利用。天草からの陶石などが運ばれた、荷揚げ場跡は今も残っている



往時の賑わいが感じられる町並み。保存地区は、山宿の景観、旧長崎街道沿いの景観、旧塩田川沿いの景観という3つの要素で構成されている



筒井 省吾さん
「塩田津町並み交流所に事前予約してもらえば、町並み歩きのボランティアガイドもしています」と筒井さん

塩田津町並み保存会
TEL・FAX 0954-66-3550

私の 好きな景観

伊万里川河畔(伊万里津)

伊万里川の河口は伊万里湾の最奥部にあり、「伊万里津」と呼ばれていました。古くは松浦党の支配下にありましたが、龍造寺氏の統治を経て鍋島藩の藩港となり、「古伊万里」の名で知られる焼物の積出拠点として港町伊万里が栄えました。

陸上輸送への転換や船舶の大型化、河川改修などによって、今では港としての機能は忘れられ、市民が憩う遊歩道となっていますが、時折鏡のように街を映す水面は、ここが天然の良港であったことを想起させます。蔵が立ち並び、魚河岸や花街を人々が行き交ったであろう往時を偲びながら歩く河畔を感じる事ができる大事な空間です。

伊万里市役所 政策経営部 高阪 雄一



古民家を活かす

唐津駅から徒歩10分。閑静な住宅地に溶け込むように佇んでいるのが、昨年11月にオープンした「古民家カフェ ぜん」。建物は、大正14年に建てられた旧質屋で、長年、店舗兼住宅として使われてきました。

現在の家主であり、カフェを運営するのは山崎久美子さん。2年前、建物が解体・分譲される計画を知り、衝動的に購入しました。

「もともと近所に住んでいて、通学路にある“格子戸の家”は、子どもの頃から見慣れた風景でした。町のために残したいと思ったんです」と山崎さん。以前、解体危機にあった明治期の旧大島邸を残す保存運動に取り組んでいたことも、大きな原動力となりました。

建物を残すだけでなく、人が集まる場所にしようとして改修工事を実施。1階をカフェにして別室には茶室を設け、2階の旧倉庫は演劇や演奏会のライブ会場として活用しています。使える古材をできる限り残すことで、懐かしさと温もりを感じる空間はそのまま。長い年月を重ねてきた建物だからこそ、人を惹きつける居心地の良さがあるのだと、あらためて感じさせてくれる場所です。

町家カフェ ぜん

唐津市坊主町552-5
電話/0955-72-2666
営業時間/11:00～日没まで
定休日/火曜日



山崎邸 古民家カフェ ぜん

唐津市坊主町



＝第2回＝ 歩く、見る、食べる！ じんかんいウォーク

町民会館 日 時 ●2018.5.12(日)
募集人員 ●200名
参加費 ●1,000円(小学生以下500円)
応募締切 ●2018.4.26(金)

※上記の金額には参加費代及び保険料が含まれております。参加申し込み時お支払いください。諸事情により中止になる場合がございますが、参加費の返金はいたしませんのでご了承ください。

《棚田一周を探索して、ゴールします。往復(8km)》

町民会館	浜野浦の棚田 (一期会(待合配布))	ハレア(抽選会)	町民会館 (参加賞配布)
8:30受付:00スタート▶12:00	▶12:00	▶13:30	▶14:00

●申し込み先・お問合せは
TEL.0955-52-6688
FAX.0955-52-5017

〒847-1421
東松浦郡玄海町大字新田1809-22
玄海町教育課 社会教育係